

South Wind

サウスウィンド Sep.2021 Vol.99

特集

ぬくもりのある“つながり”を求めて



Contents/ 目次

In 宮崎 ぬくもりのある“つながり”を求めて ～宮崎に根ざす外国人コミュニティ～	2
多文化共生社会をめざして ～地域と外国人をつなぐ交流基地“地球人BASE”～ ...	4
Hear! Here Voices ～バレットバレラデイス ミリアムさん(コロンビア出身)～...	5
JICA ぼーぺんにゃん	6
宮崎県国際交流協会ニュース	7
INFORMATION	8

おしゃべり会

毎月1回、県民の皆さんと宮崎県国際交流員が日本語、英語、韓国語、中国語でさまざまな話題についておしゃべりをしながら交流をしています。初めて参加される方を優先していますので、ぜひ多くの方々にこの機会を楽しんでいただきたいです。



公益財団法人 宮崎県国際交流協会
<https://www.mif.or.jp/>

In 宮崎 めくもりのある“つながり”を求めて ～宮崎に根ざす外国人コミュニティ～

宮崎県内には、86の国・地域から訪れたおよそ7,800人（2020年12月現在）の外国人の方が住んでいます。登録されている在留資格は、技能実習が半数を占め、永住者、留学、日本人の配偶者などで、宮崎に住む目的や理由は様々です。その中で、お互いが助け合い交流を深めるためにコミュニティを作り、活動している団体が県内にはあります。今回は、3つの団体の代表者の方にコミュニティについて伺いました。

質問① あなたが宮崎を選んだ理由を教えてください。

質問② コミュニティを作ったきっかけは何ですか？

質問③ コミュニティは必要だと思いますか？

質問④ つながりのある宮崎の人がいたら、教えてください。

質問⑤ 宮崎の人(日本人)に望むことがありますか？

Musulim Community of Miyazaki (MCM)

Osama Akak さん：シリア出身。宮崎大学修士課程在学。今年度から宮崎大学ムスリムコミュニティ代表、現在はコロナ禍で、1日の断食後の「イフタル」（ラマダン中に行われる日没後の食事）へ日本人を招待するなどの活動をストップ。国内外への情報発信を行い、フェイスブックのフォロワー762人（2021年5月）



①宮崎へは1年半前、大学の修士課程の勉強の為に来ました。初めて日本語を学んだ広島に馴染んでいたので、暫くは寂しかったです。しかし、周りの人が親切で、自然が美しく、生活費もそれ程かからないので、とても住みやすい所だと思っています。

②2014年頃、ムスリム（イスラム教徒）の学生や住民がお祝いやお祈りをする時、例えば、毎週の「金曜礼拝」の時などに、助け合えるよう設立されました。

③助け合えるコミュニティがあることはありがたいです。

④いません。緊急で病院に行く時、役所で説明が必要な時など、私は日本語が未熟なので、うまく話せて経験豊かな人に助けてもらいます。頼りにしているのはムスリムの家族です。

⑤日本人は、一般的にシャイだと思っていましたが、ここでは、会話を通して、良い関係を築いています。日本で仕事に就きたいし、良いネットワークや多くの友達を作りたいです。また、日本の方にも、私たちは外国人であること、間違いもし、そこから学んでいることを理解してもらいたい。ムスリムコミュニティについて知ってほしいし、海外へ行けるようになったら、私たちの国に来て、より身近な視点から、伝統や、食べ物、活動などを理解して頂きたいです。



Miyazaki International Community (MICO)

サイエツト 健二 さん：エジプトのカイロ生まれ、宮崎県 ALT リーダー、採用担当。
2012年 MICOを設立し、フェイスブック開始、当初7人のメンバーが679人(2021年5月)、月1回ミーティングを実施し交流をおこなっている。



- ①宮崎大学修士課程の留学生として初めて来日しました。宮崎に住もうと決めた理由は二つ、人々が親切なことときれいな自然です。
- ②なかなか宮崎県民と宮崎に住んでいる外国人を結ぶ機会がなかったので、MICO を作ろうと思いました。
- ③小規模グループから世界規模の広い地域の人々がコミュニケーションを取るためにはコミュニティは必要です。コミュニケーションを取ることでお互いが理解でき、トラブルを防ぐことができます。
- ④グリーンティーフィールズ喫茶店(毎月集まる所)のオーナー 園田典子さん
- ⑤宮崎県の自然が素晴らしいし、魅力的なポイントが多い(美味しい食べ物、神話、海など)のでぜひもっと国際的な町になって欲しいと思います。

(緑茶カフェ Green Tea Fields) オーナー 園田典子さん

MICOとのつながりについて教えてください。

友達に誘われて MICOのミーティングに参加したのがきっかけで、お店に集まって頂くようになりました。毎月最終土曜日の夕方、多い時には30人ほど、日本茶を飲みながら、英語を通して、皆さん、自由でオープンな雰囲気の中、交流を深めています。お店が役に立ってとても嬉しいです。



宮崎県ベトナム人交流会

ホアン ティ ジャンさん：ベトナム生まれ、宮崎中村学園に勤務。2019年団体設立、SNSでベトナム人への情報発信、日本語学習や交流会、スポーツ大会などを行う。Facebookのフォロワー数819人、グループ参加者2,300人(2021年6月)



- ①住めば住むほど、宮崎のきれいな自然や心の温かい人の多さなど、良いところがたくさん実感できたからです。
- ②以前、研修生として来日したときは、日本語があまり話せない、友達も少ない、困った時にも相談できる所はありませんでした。この辛かった体験を生かしてコミュニティを作りました。
- ③必要だと思います。ベトナム人が集まり交流することで、困り事や悩みなど解決しやすくなり、お互いの気持ちが触れ合うことで、安心して仕事ができるようになると思います。また、交流により地域に溶け込み、多くの日本人と接する機会ができ、お互いの文化や習慣、マナー、法律などを自然に学ぶことができます。
- ④県国際交流協会、外国人サポートセンター、市国際交流協会、県日本ベトナム友好協会、JVPPF(日本ベトナム平和 友好連絡会議)、多文化共生団体、宮崎中村学園、その他の皆様
- ⑤在日ベトナム人で罪を犯す人が増えていることから、日本人はベトナム人に対して不安に思うでしょう。しかし、すべてのベトナム人が悪い人と思わないでほしいし、夢を持って来日する多くのベトナム人は、仕事を必死に、熱心に、真面目に、明るく前向きに頑張っています。県内外国人の半数はベトナム人で、外国人への差別、偏見、いじめ、セクハラなどもあり、ただ人手不足を解消する為に利用しているのではないかと疑うこともあります。外国人は単なる労働者ではなく、職場において一人の人間として、必要とされ、価値ある人材として認められ、日本人と同様、能力で評価する企業が増えてほしいと思います。



遠く母国を離れて、宮崎で暮らす外国の方々にとって、コミュニティは互いに助け合える大切な存在です。私たち日本人も、日々の生活の中で、そのような方々に少しでも関心を持ち、理解し、コミュニティと“つながり”を持てるようになるといいですね。

多文化共生社会をめざして

★地域と外国人をつなぐ交流基地★ 地球人 BASE

みなさんは「地球人 BASE」をご存じでしょうか？

「地球人 BASE」は宮崎県の三股町・都城に住む外国人住民と地域住民のつながりの場となるコミュニティグループです。このコラムでは「地球人 BASE」でプレーヤーとして活動している荒井さんにお話を伺いました。

地球人BASEについて

Q設立のきっかけは何ですか？

技能実習生に日本語を教えていたところ、ある外国籍の方から、1年以上日本に住んでいるにもかかわらず日本人の知り合いがいないと悩みを打ち明けられました。また会社の上司や同僚との付き合いも仕事だけでしかなく、頼る人がいないとのことでした。そこで三股町の社会福祉協議会が開催している「場作り」をテーマとした井戸端会議に参加し、外国人が日本人とコミュニケーションをとれる居場所づくりについて提案をしたところ、話が進み外国人との交流を目的とした居場所「地球人BASE」を設立することになりました。

Q今までどんな活動をされてきましたか？

桜を見たいと外国人の方の声を聞き、着物を着て桜を觀賞したり、日本語教室で方言の勉強、フットサル大会などを開催しました。コロナ禍による緊急事態宣言が発動された時はオンラインで日本語の会話を練習する活動も行ってきました。

Q地域住民や外国人住民の反応はいかがですか？

まだ設立したばかりでもあるので、知り合いやそのつながりからの参加者が多いです。地元の方は会ったこともない国籍の外国人に対して見聞きしただけの情報や固定観念を持っている人もいます。コミュニティを通して実際に会ってみたいことで、相手も自分たちと変わらない人たちののだということにも気づかされるので、互いにとって良い経験になると思います。

Q運営での難しさは何ですか？

これまで参加していない外国の方とつながりを作っていくことです。

情報をSNSに載せても、目を通すだけで自分から参加しようとする人は多くありません。よって、現在は直接声をかけてみるなどして参加を促しています。地域には、孤立している人や同国同士のコミュニティを頼りにしている外国人がたくさんいますが、日本に住んでいる限り、文化や価値観の違いによって壁にぶつかる人は多いと思います。地球人BASEの活動に参加すれば地元の住民にも会えるので、活動を通して出会った人たちが、国籍や枠を越えて個人同士でつながっていくといいなと思っています。

また、三股・都城地域にはインドネシア人やベトナム人が多く住んでいますが、英語が母語ではない人たちへ情報提供を行うのが難しいです。多言語に翻訳してくれる人が常にいるわけではないので活動に参加してもらった方達の中から協力してもらえ人の力を借りるようにしています。今後は、コミュニティを通し色々な人と出会って地球人BASEのサポーターなども増やしていきたいです。

Q今後どういった活動をしていきたいですか？

コロナが収まれば、夏定番のそうめん流しや花火、日本人が相手国の文化やあいさつ言葉を勉強できるものを企画したいと思っています。ただ日本人が外国人に与えるだけではなく、外国人も主体となって、日本人に何かを提供できるようなギブアンドテイクのイベント企画をしていきたいです。そして活動する上では、浅く広く地域の色々なコミュニティにいる人たちともつながり、楽しく活動をしていきたいです。



★地球人BASEでの活動★

※左からフットサル大会、着物を着ての桜觀賞会、日ほんGO教室の様子



詳細はこちらのSNSやページからご覧になれます！

- FACEBOOKページ: 「地球人 BASE」または @chi9jinbase
- YouTubeチャンネル: Chikyujin Base 地球人 BASE
- インスタグラム: 「地球人 BASE」または chikyujin_base

Hear! Here Voices

バレット バレラ デイシー ミリアムさん



1995年から1997年まで宮崎大学の留学生として電子工学を学び、現在は子供たちに英語を教えています。また、デイシーさんは外国人としては数少ない消防団員として活動されています。今回の「Hear! Here Voices」ではその活動についてお聞きました。

1 消防団に入ったきっかけは何ですか。

コロンビアで、火事で足にやけどを負った女の子がいて、その女の子が一生懸命に立ち直ろうする姿が心に残っていました。さらにその後、中国で大きな地震が起き、その被害の状況を見て、自分も何かできることがないかと思い始めました。そしてNPOでボランティア活動を始めていた時、テレビで消防団の募集を見て、自分も参加しようと決めました。2007年に宮崎市の消防団に入団し14年間活動を続けています。さらに※応急手当普及員の資格も取りました。

※応急手当普及員（おうきゅうてあてふきゅういん）は、日本で消防機関による応急処置技能の普及を支援し救命講習を教授する人員またはその資格



宮崎県国際交流協会の防災セミナーで救急救命の説明をしているデイシーさん



2 日ごろどのような活動をされていますか。

今は、応急手当普及員として公民館や学校で救命講習などに参加し、救急救命の仕方や、AEDの使い方などを伝えています。各家庭を回って、火災報知器設置を呼び掛けるパンフレットなどを配ることもあります。また、青島太平洋マラソン大会では、トランシーバー、救急箱、AEDを持ち、ランナーが走るコースの横を自転車で回りました。これまでは定期的に団員と集まって、活動の計画を立てたり仕事分担をしたりしていましたが、今のコロナ禍の状況では、それらの活動も制限されているので残念です。



お母さんと寛いでいる消防団の制服姿のデイシーさん

3 活動をしていて楽しいことは

消防団のみんなと一緒に活動をしていると一つの家族のように感じます。また、団員の一人一人が責任感を持って「市民の皆さんのために！」という気持ちで活動しています。活動する時のみんなの笑顔がとてもステキで、私もその団員の一人として活動できて、とても嬉しいです。

4 活動を通して得たものはなんですか。

消防団の活動を通して知り合えた仲間や友人です。今では、私が病気になったときでも、やさしく気遣ってくれるお母さんのような存在です。また、文化が違っていても私を受け止め、温かく迎えてくれます。みんなと集まってコロンビアの料理を作ったりコロンビアのダンスなどを紹介することもあり、とても大切な仲間です。

5 最後にみなさんへ

宮崎の人たちは心がきれいで、親切です。安心して住むことができます。ただ、火事や事故はいつどこで起きるかわかりません。そのような時に、救急車を呼んでもすぐに来ない場合があります。しかし、その時その場にいた人が適切な応急処置をすれば、救える命があります。みんなで助け合いましょう。

Let's join hands.

You can help in case of need.

消防団で活動するには

現在、デイシーさんの所属する宮崎市の消防団には2,607名の団員が活動されています。そのうち、男性1名、女性2名の外国人が在籍されています。

消防団は地域防災の要として重要な役割を担い、「自分たちの地域の安全は、自分たちで守る」という精神で活動されています。デイシーさんのように消防団活動に興味のある人は、お住いの市町村または各消防本部へお問い合わせください。





JICAデスク宮崎 国際協力推進員

田代 芽衣

Tashiro Mei

(元青年海外協力隊 看護師としてラオスで活動)

☎:0985-32-8457

✉:jicadpd-desk-miyazakiken@jica.go.jp

URL:https://www.jica.go.jp/Kyushu/



ບໍ່ເປັນນຳ

「ぼーぺんにゃん」は、^{ジャイカ}JICA や国際協力について様々なことを紹介していくコーナーです。
(「ぼーペンニャン」は、ラオス語で「大丈夫」「気にしない」「なんとかなるさ」という意味)



出前講座の様子

「ぼーペンニャン vol.9 ～開発教育事業展開に関わるなかで～」

皆さま、こんにちは！ JICA デスク宮崎・国際協力推進員の田代です。

グローバル化が進む世界においては、地球に住む私たち自身が自らのライフスタイルを見つめなおし、国際社会が抱える課題に取り組むことが必須かつ急務となっています。

90ヶ所の海外拠点をもつ JICA は開発途上国における国際協力事業で培った「知見・経験・人材」を活用し、日本社会への開発途上国での「知見の還元」、世界の現状と課題について「考える機会の提供」及び開発教育推進のための「ネットワークづくり」を目的に開発教育支援事業を実施しています。

私は業務のなかで、学校現場における開発教育に携わる機会を頂くことが多いのですが、先生方や学生さんとの関わりのなかで、開発教育を展開することの重要性を認識させられることがしばしばあります。開発教育とは、公正で共に生きることで持続可能な地球社会をつくることを目指した教育学習活動のことですが、「世界と日本の繋がり」や「JICA ボランティアでの体験談」をお話させて頂くと、返ってくる学生さんの反応はとても大きく、多角的に物事を捉える鋭い視点やこちらが考え付かないような想像力を持っていることに驚かされます。そして世界を良くしようと熱い思いをもって試行錯誤している姿を目の当たりにすることもあります。そのような時、これからの多文化共生社会における未知なる可能性の大きさを感ずるとともに、持続可能な社会をつくることに向けて一人一人が具体的に行動していかなければならないという責任について認識させられます。

世界規模にて蔓延する新型コロナウイルス感染拡大の影響はまだ大きく、何かと制限を強いられる場面が多い昨今ですが、「開発教育事業に関する取り組みや学ぶための機会の創出を止めてはいけません。」と改めて感じています。

「持続可能な社会の創り手」の育成に向け、JICA 九州では今後も積極的に開発教育に関する事業を展開していきたいと考えております。

「自分にできる国際協力って何だろう？」そう思い始めることであなたの国際協力への第一歩は始まっているかもしれません。皆さんも一緒に考えてみませんか？気になった方はいつでもお気軽にお問合せ下さい。JICA に関すること、国際協力に関すること、開発教育支援事業に関することを一緒にお話ししましょう♪

●JICA九州開発教育支援事業●

<https://www.jica.go.jp/kyushu/enterprise/kaihatsu/index.html>

●JICA九州開発教育支援事業リーフレット●

「世界とつながるはじめての一步」



生徒のレポート



「ある国に宮崎人がおったげな…」^{ミテン}miten

各国で暮らした経験のある宮崎人が旅行では知ることのできないリアルな体験記をつづります。毎月続々更新中！
バックナンバーも是非ご覧ください。

WEB <http://www.miten.jp/miten/modules/popupblog/>



JICA の事業について質問などございましたら、(公財) 宮崎県国際交流協会内 JICA デスク宮崎までご連絡ください。

TEL.0985-32-8457 E-mail : jicadpd-desk-miyazakiken@jica.go.jp

宮崎県国際交流協会ニュース

● 次の講座を開催しました。 ●

東京2020事前合宿国際交流

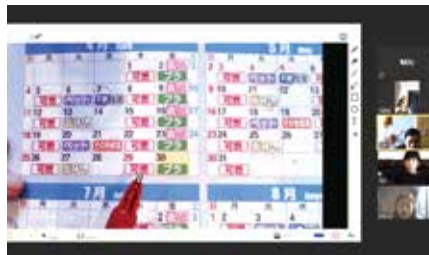
7月17日(土)に国際理解講座を開催しました。オリンピック・パラリンピックで宮崎県がホストタウンになっているイギリス、ドイツ、イタリア、カナダにゆかりのある方に国の紹介とスポーツについてのお話をいただきました。また宮崎県が地域でアスリートを応援する動画を作成、宮崎県のHP等で公開しています。



オンライン日本語講座 初級1・2・3



オンラインのため、宮崎県内どこからも受講できる日本語講座が始まりました。今回は宮崎市だけではなく、延岡市、日向市、都城市、日南市からも参加され、移動やコロナ感染を気にすることなく、自宅等で日本語を学習することができました。9月からも、初級1・2の講座を開催します。



日本語学習支援者養成講座

全県下の皆さんを対象にしたオンラインの講座と川南で対面での講座を開催しました。講義だけでなく、グループワークを取り入れ、やさしい日本語や異文化理解・異文化コミュニケーションを学び、日本語学習支援について考えていただきました。9月以降も日向市や三股町、日南市で開催予定です。



日本語講座(カリーノ)

本事業は日本語を初級のレベルから勉強したいという県内在住の外国人住民に対して開催されます。前期は7月にスタートしました。様々な国から来た外国人住民の方が日本語を学ばれています。



日本語れんしゅう会 (通年開催) 毎週水曜日・金曜日

日本語をもっと上達させたい、と希望する外国人の方を対象に、日本語ボランティアの皆さんによる学習会です。教科書や新聞等を利用して、それぞれのレベルに合わせて進めています。



国際ふれあいチャット 英語(初級、中・上級) 中国語・韓国語



どの講座も、各言語のボランティアさんや県国際交流員と、その言語を学習された日本人の方々が毎回様々な話題で、1時間チャットを楽しまれました。



おしゃべり会

宮崎県の韓国、シンガポール、イギリス出身の国際交流員とそれぞれの国の文化や習慣など様々な話題で交流できる良い機会となっています。今までに11回実施し、多くの方が参加されました。英語、中国語、韓国語が話せない方も日本語で交流できますので、ぜひご参加ください。



これからも、日本語講座、英語・中国語・韓国語のチャット、外国人住民を支援するための講座、アートフェスティバル、国際フェスタ等、講座やイベントの開催を予定しています。なお、新型コロナウイルス感染に係る社会状況により、中止や延期、変更も考えられます。今後も当協会のホームページやフェイスブック等でお知らせいたしますので、ご確認ください。

ちよっぴといき

「特別な1年」

宮崎県国際交流協会 カウンターボランティア
松元 瑞季

29歳の時、20代最後の年を有意義にする為ワーキング・ホリデーに行くことを決めました。

ファームでのピッキング、カーウォッシュなど色々仕事をしたましたが、ホテルのハウスキーピングが一番楽しかったです。

パースから高速バスで7時間。携帯の電波も届かない、あるのは広大な自然と野生のカンガルーのみの湖畔のリゾートホテルで4カ月間を過ごしました。

日本、韓国、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ... 色々な国籍の人と一緒に働きました。

しんどいこともありましたが、どんなに忙しい時期でも16時には仕事が終わって、オフの時間は湖で泳いだり、バレーボールや卓球などで遊び、夜はパーティーという日々でした。

毎日残業が当たり前前の日本での生活と比べると天国のような環境でした。

ジャパニーズレストランなどより時給もよく、お金を使う場所もないので、ここで貯金をして旅行に行ったり、パリスタ養成学校に通ったりと次の目標に向けて頑張っている子もいました。

私もシドニーのシェアハウスで出会った友人とキャ

ンピングカーをレンタルし、オーストラリア4分の1周旅行をしました。

オーストラリアはとにかく広大でした。ブリスベンからウルルを目指したのですが、3日もあれば到着するだろうと考えていましたが、一日中運転しても1週間かかりました。

この旅行中に、ご主人の定年後、自宅を売却して購入したキャンピングカーで一年のほとんどを生活されているご夫婦に会いました。

モノではなく一緒に過ごす時間や思い出を大切にされているとても素敵なお夫婦でした。日本とは違う幸せのカタチを見せてもらった気がしました。

25日間の旅行でしたが、有名な観光地だけでなく小さな町にも立ち寄ることができ、とてもいい思い出になりました。

日本に帰国後私たちは友人から夫婦になり、今でもよくこの旅行の思い出話をしています。

ワーキング・ホリデーに行くか迷っている人には「絶対に行ったほうがいいよ」と伝えています。

こんなに自由で楽しい一年間はワーキング・ホリデーでしか得られないと思います。



INFORMATION

みやざき外国人サポートセンターからのお知らせ

みやざき外国人サポートセンターでは、県内在住の外国人のみなさんからの生活に関する相談を対面・電話・メール・オンライン(ZOOM)で受け付けています。

詳しくは下記までお問い合わせください。

【問合せ】みやざき外国人サポートセンター

TEL: 0985-41-5901

FAX: 0985-41-5902

E-mail: support@mif.or.jp

URL: https://support.mif.or.jp



Website



Facebook



Instagram

アートフェスティバル作品募集

【テーマ】外国人が見た宮崎

【展示期間】令和3年11月17日～12月4日

【場所】カリノ宮崎地下1階 みやざき外国人サポートセンター横 交流スペース

【応募資格】原則として宮崎に住んでいる外国人または外国にルーツのある方

【部門】写真・絵画・書道・手工芸(動画は除く)

【出品点数】各部門とも1人2点以内

サイズ:50cm×50cm以内

※詳細についてはお問い合わせください



日本語ボランティア紹介

日本語講座やれんしゅう会に参加できない方に、日本語ボランティアを紹介します。学習場所や時間、内容は当人同士で決めます。

【対象】宮崎県に住む外国人

※詳細についてはお問い合わせください

◆ 賛助会員 入会のご案内 ◆

会費：個人会員 年間1口 2,000円 団体会員 年間1口 10,000円

特典：協会発行の定期刊行物「プラザニュース(日・英・中・韓)」、「South Wind」等の提供、協会開催事業への先行案内・優先参加、協会開催講座の参加割引、協会HPから団体HPにリンク可能(希望団体のみ)



South Wind

サウスウィンド
Sep.2021 Vol.99



企画・編集 公益財団法人 宮崎県国際交流協会 第99号 2021年9月発行

〒880-0805 宮崎市橋通東4-8-1 カリーノ宮崎地下1階 TEL.0985-32-8457 FAX.0985-32-8512

●URL https://www.mif.or.jp/ ●E-mail miyainfo@mif.or.jp

情報・意見などをお寄せください。

外国人との交流会など、国際交流に関する催しを計画している団体やサークルの情報をお待ちしております。また、国際交流に関する話題や体験談、意見なども協会にお寄せください。本誌に対する要望もお待ちしております。



開館時間：火～土 10:00～19:00
休館日：日・月・祝日・12月29日～1月3日